

1267

海軍使鳩教科書草案

昭和二年十二月

海軍使鳩教科書草案

横須賀海軍航空隊軍鳩實驗研究委員會編纂

海軍使鳩教科書草案 目次

緒言

第一章

沿革

第一節

軍鳩通信ノ始期並發達ノ經路

第二節

我陸海軍ニ於ケル軍鳩

第一回研究

第二回研究

第二章

軍鳩通信ノ能力概要

第一節

軍鳩通信ノ長所特質

第二節

軍鳩通信ノ能力

第三章

軍鳩ノ形態

第一節

外貌

第二節

各部ノ名稱

第三節 ..... 羽色

第四節 ..... 翼羽及尾羽

第五節 ..... 鳩記號

第六節 ..... 優秀鳩、外觀容姿

第七節 ..... 鳩體、構造及官能

一、消化器系

二、呼吸器系

三、眼

四、換羽

軍鳩ノ能力

第四章

第一節 ..... 鳩ノ歸巢性

第二節 ..... 鳩ノ飛翔速力並實用距離

一、晝間鳩舎(陸上固定鳩舎) 艦上鳩舎 移動鳩舎

七

七

八

九

一〇

一三

一三

一三

第五章

第一節

往復通信鳩舎

二 夜間鳩舎

管理飼育

鳩舎(車)、種類及性能

一 陸上固定鳩舎

二 夜間鳩舎

三 艦上鳩舎

四 移動鳩舎(車)

五 往復通信鳩舎

第二節

飼糧

一 飼糧、種類及選擇

二 我海軍、常用飼糧

三 飼糧、配合

第三節

四 飼糧ノ日量

五 飼糧ノ精選

器材作業服及諸用紙

一 器材

(1) 備品ノ部

巢箱 「フラス」 電鈴 呼笛 鳩籠 飲水器

給餌器 鳩水浴槽 鳩足輪固着器 足輪記號器

捕鳩網 水罐 篩箕 振旗 消毒器 糞搔

糞取 土塩箱

(2) 消耗品ノ部

鳩巢 鳩足輪 信書筒 信書囊 鳩笛

小印

二 作業服

第六章

三 諸用紙

軍鳩通信用紙、鳩舎諸用紙、放鳩成績用紙

訓練

第一節

馴致

二三

第二節

岩舎

二四

第三節

舎外飛翔

二四

第四節

放鳩訓練

二四

一 基礎訓練

二 延伸訓練

三 保能訓練

四 放鳩法

五 放鳩躍進度

六 各個放鳩、集團放鳩、利臭、缺臭

第五節

陸上固定鳩舎、訓練

二六

第六節

夜間鳩舎、訓練

二六

第一期 基礎訓練

第二期 夜間放鳩訓練

第三期 蕃殖並保能訓練

第七節

船上鳩舎、訓練

三二

一 泊地ニ於ケル訓練

二 航海中ノ訓練

第八節

移動鳩舎(車)、訓練

三三

第九節

往復通信鳩舎、訓練

三三

第七章

使用法

三七

総則

第一節

放鳩ニ就テ

三八



第二節 ..... 信書ニ就テ

第三節 ..... 鳩携行ニ就テ

第四節 ..... 管理中ノ注意

第五節 ..... 鳩ノ持チ方及其他ニ關スル寫真

第八章 蕃殖

第一節 ..... 親鳩ノ選擇

第二節 ..... 交配

一、雌雄分離並交配時機

二、交配上ノ注意スヘキ事項

第三節 ..... 産卵・孵化・育雛

第四節 ..... 巢立

第九章 鳩舎衛生

総則

三六

三九

四〇

四一

四三

四三

四三

四五

四五

四七

四七

四七

第一節

疾病及療法

四八

一 傳染病

二 呼吸器病

三 消化器病

四 神經病

五 眼病

六 産卵異狀

七 運動器病

八 外傷

第二節

害虫及其駆除法

五四

一 鳩ノ外寄生蟲ノ主ナルモノ

二 駆除法

第十章

軍鳩員服務心得

五五

總則

第一節 ..... 掌鳩者ノ精神修練

第二節 ..... 日常ノ鳩舎勤務

第三節 ..... 記録整理

第十一章 使鳩用語

附録 鳩舎用需品器材(寫真)

五六

五六

五八

五九

七一

## 緒言

本書ハ主トシテ部内航空隊防備隊ニ於ケル軍鳩員タル下士官兵ニ閱讀セシムル爲急遽編纂シタルモノニシテ基礎的概念ト必須知識ヲ修得セシムルコトヲ主眼トシ努メテ平易簡略ニ説述セリ故ニ本書ノ内容ヲ整備セシムルニハ今後尙相當ノ日子ヲ要スルト共ニ幾少改廢訂正ヲ要スル集アルヘシト信ス(追テ増補訂正ノ予定)

# 第一章 沿革

## 第一節 軍鳩通信の始期並發達ノ經路

有史以前ヨリ人類ニヨリテ馴致セラレタル鳩ハ最初小亞細亞地方ニ於テ隆昌ヲ極メ次テ「エチオピア」羅馬等ニ傳ハリ羅馬ニ下リテハ西歷紀元前四十四年(崇神天皇ノ御代)「モテース」守城ニ鷹ヲ利用シ空中通信ニヨリ攻圍線ヲ突破シテ外部トノ連絡ヲ保持セリト云フ歴史ヲ有スコレニ依リテモ已ニコノ頃ヨリ鳩ヲ軍用通信ニ使用セラレタルコトヲ想像シ得ヘシ

亦來世ノ進化ニ伴ヒ鳩通信モ次第ニ發達シ十一世紀以來ハ常ニ戰場ノ通信機關トシテ最モ重要セラレ殊ニ和蘭白耳義地方ニ於テハ他國ニ先シテ傳書鳩ノ研究ニ力ヲ注キ種々相異レル鳩ヲ交配シテ只管新種ノ作岁ニ努メ現今ノ使鳩ノ基礎的種族ノ創成ニ成功シタルモノハ實ニ白耳義人ナリ其ノ後數世紀ニ亘リテ各地方ニ於テ熾ニ競翔流行シタルモノ好鳩家ヲシテ益々鳩ニ興味ト利益トヲ感セシメ相争ヒテ一層

優秀ナル新種ノ作成ニ努力セシムルニ至レリ當時ノ優秀鳩カ如何ニ好  
 鳩家間ニ珍重セラレ且ツ高價ニ取引セラレタルカハ全ノ想像以上ナリト  
 云フ。斯ノ如ク曰耳義地方ニ發達セル鳩ハ先ツ隣接セル佛國ニ翼ヲ延  
 ハシ漸次歐洲各國ニ傳播シ更ニ數百年間周到ナル造詣ト卓越セル技  
 術トヲ以テ交配ト淘汰トヲ繼續セラレタル結果遂ニ今日ノ如キ一種獨特優  
 秀ナル傳書鳩ヲ發現セシムルニ至レルモノナリ

巨年義人ニ於テ此ノ種ノ改良ニ最モ力ヲ盡シタルモハ佛國人ニシテ同國ハ  
 千八百七十二年巴里ノ籠城ニ於テ獨軍ノ重圍ヲ突破シテ外部トノ連絡  
 ヲ保持シ得タル當時ノ偉大ナル鳩通信ノ功績ニ刻乾セラレ鳩ヲ愛好シ  
 飼育スルコトハ愛國的行爲ナリト稱セラルニ至リ談戰後後ハ盛ニシテ飼  
 育ヲ獎勵シ各種ノ研究ヲ繼續シテ遂ニ歐洲大戰ニ及ヒ同國軍鳩カ到ル  
 處ノ戰場ニ於テ偉勳ヲ奏セシコトハ世人ノ記憶ニ尚新タルトニコナリ  
 現今我軍隊ニ飼育セラル軍鳩ノ大部ハ佛國種又ハ白耳義種ニ爲

スルモノニシテ佛國鳩ノ名聲ハ白耳義鳩ト併立シテ世界ノ霸權ヲ掌  
握スルニ至レリ

## 第二節……我陸海軍ニ於テル軍鳩

### 第一回 研究

我海軍ニ於テル軍鳩研究ハ明治ニ七年二月横須賀鎮守府ニ於テ米  
國産鳩若干羽ヲ購入シテ飼育シタルニ始マリ其後英白種等ノ優良鳩  
ヲ輸入シテ横須賀舞鶴ノ各鎮守府及竹敷要港部海軍望樓等亦  
テ飼育訓練ヲ試ミタルモ當時飼育法ニ通曉セズ折柄傳染病ノ蔓延ニ  
大打擊ヲ受ケ加フルニ無線電信ノ出現ハ鳩ノ聲望ヲ一層低下セシメ明  
治三十八年遂ニ之ヲ研究ヲ中止セリ

陸軍ニ於テハ明治二十年頃ヨリ屢々極メテ小數ノ鳩ヲ飼育研究シタル其効  
果ヲ極マルニ至ラス越ヘテ明治三十七年支那ヨリ三百羽三十四年白耳義ヨリ三百羽

三十五年獨逸ヨリ五十羽ヲ購入シ同年東京市外中野町電信教導大隊  
建設ト同時ニ同隊ヲ中心ニ之等ノ鳩ニ就キ比較研究セルモ遂ニ成果ヲ收ムル  
能ハスシテ中止セシカハ明治末年ニ至リ全ク研究ヲ断ソニ至レリ

## 第二回研究

歐洲大戰ニ於テ軍鳩カ偉大ノ効績ヲ發揚シタルニ鑑ミ陸軍ニ於テ佛國  
ヨリ軍鳩一千羽鳩車四輛其他鳩舎附属器材ヲ購入シ同時ニ鳩術教官  
佛國砲兵中尉「ケレルカン」氏外ニ名ノ下士ヲ招聘シ軍務局長ヲ委員長トス  
ル軍用鳩調査委員會ヲ編成シ其ノ事務所ヲ東京府下中野町ニ置キ第  
一回軍鳩研究ヲ放棄シテヨリ凡十年ノ後即チ大正八年ノ春之ヲ研究ヲ再  
興シ現今ハ師團ノ大部及要塞諸學校等ニ鳩通信班ヲ設ケ其基礎  
機關タル軍用鳩調査會事務所ニテハ常ニ数千羽ノ鳩ヲ飼育シ仔鳩ヲ全國  
各部隊ニ配給シ且ツ年々数十名ノ將校下士ヲ會所ニ召集シ鳩術教育ヲ施行  
シ整然トシテ鳩通信術ノ普及ト其ノ向上トヲ計リツマアリ



海軍ニ於テハ大正七年ノ夏横須賀海軍航空隊ニ於テ非公式ニテ軍鳩研究  
 再燃セラレシモ經費ノ少所ニ窮シテ之ヲ發達セシムルニ由ナカリキ。越テ大正  
 八年ノ夏武知大尉以下下士官兵五名陸軍々用鳩調査委員會ニ派遣セラ  
 レシレルカシ氏以下佛人教師ヨリ飼育訓練ノ講習ヲ受ケ大正九年三月横  
 須賀航空隊ニ於テ鳩舎一棟竣エト共ニ陸軍ヨリ鳩百羽ノ分譲ヲ受ケ  
 武知大尉主任トナリテ專ラ海上方面ニ於ケル使鳩術其他ニ就キ研  
 究ヲ開始シ茲ニ我海軍々鳩ノ基礎ヲ確立セリ。爾來星移リ人代リ  
 テ海陸両方面ニ於ケル諸種ノ實驗研究ヲ繼續シ現今ニ於テハ訓令  
 ニ依リ各航空隊各防備隊及艦隊ノ艦船ニハ未々軍鳩ヲ飼育シ得ル  
 コトナリ且ツコレカ基礎機關ヲ横須賀航空隊ニ置カレ將ニ常備機  
 關トシテ名實共實用ノ時代ニ入ラントシツ、アリ。殊ニ輓近横須賀航  
 空隊ニ於ケル夜間鳩ニ関スル研究ハ長足ハ進歩ヲ遂ケ暗夜ニ於テモ尚能  
 ク通信シ得ルコトヲ證明セラレ軍鳩ノ前途ニ一大光明ヲ發見セルト共ニ

輕便獨特ノ通信機關トシテ漸次重用セララル、ニ至レリ。

## 第三章 軍艦通信ノ能力概要

現今我海軍ニ於テ使用セララル、通信様式通信器具等種々アトモ皆  
其一ノミヲ以テ各種ノ情況ニ於テ萬全ヲ期シ得ルモノナシセリ即チ各種  
通信法ノ存在採用セララル、理由ナリト入軍艦通信ハ其ノ性能上分秒  
ヲ爭フ洋上ノ戰略戰術的通信トシテ有利ナルモノニアラサルハ勿論ナリト  
雖モ本通信法ハ又他種通信法ノ企及シ能ハサル長所特徴ヲ有シ以テ  
從來ノ通信法ノ一欠陥ヲ充足シ得ルモノナリ

1284

### 第一節 軍艦通信ノ長所特質

(1) 科學的通信法ノ杜絶シタル場合最後ノ通信手段トシテ唯一ノモノナリ  
又科學的通信ノ副裝置補助通信用トシテ極メニ輕便ナリ

(ロ) 精細ナル数字、表略圖寫真、フィルム上長文、信文ヲ輸送スル能力アリ  
 (リ) 燭数ヲ多クスルコトニ依リ並ニ鳩通信用顯微鏡寫真、利用ニ依リコト能  
 カ一層増加セシムルコトヲ得)

右二項目ハ軍鳩通信獨特ノ長所ニシテ他ノ現有科學的通信機關ノ  
 得テ追従スル能ハサル知ナリ尚他ノ利矣ヲ列擧スレハ

(イ) 隱密ニ發信スルコトヲ得

(ニ) 混信妨信ノ憂ナシ

(ホ) 通信時刻ノ制限ヲ受クルコトナシ(夜間ハ夜間鳩使用)

(ハ) 發信者ニ何等專問的技術ヲ要セス誰人ニテモ使用シ得

(ト) 發信設備ヲ要セス

(チ) 信書通信ナルヲ以テ途中ニハ在中継スルモノナク從テ信文ニ錯誤ヲ  
 惹起スルコト絶對ニ無シ

(リ) 鳩ハ毒瓦斯ニ對スル抵抗極メテ大ナリ

(x) 總シテ用法設備器材要具等簡單明瞭ナルヲ以テ軍用トシテ適切ナリ

### 第二節 軍鳩通信ノ能力(概説)

(1) 時間 我國ニ於テハ大正十三年頃迄ハ晝間通信ノミニ限セラレタルモ其ノ後實驗研究ノ結果晝夜兩用ノ夜間鳩ノ出現トナリ今日ニ於テハ殆ト時刻ノ制限ヲ受クルコトナシ

(2) 使用地域 酷寒ノ「シベリヤ」ニ於テモ酷熱ノ南洋ニ於テモ使用シ得

(陸海軍ノ實驗成績ニ依ル)

(3) 通信速度 能ク訓練セラレタル優秀鳩ニテリテハ其ノ水平速度ハ平均一

分一料(三十七節)ナルモ中等鳩ハ一般ニ一分時六百米乃至八百米ナリ

### (4) 通信分量

一羽ノ鳩ノ通信量

信書携行法ノ種別

字數

記事

(六) 通信距離

日本に於ける最大通信距離(昭和二年七月現在)

民間	陸軍	海軍		鳩ノ所属別	放鳩地	到着地	距離(料)
		海上	沿岸				
盛岡	福山	青ヶ嶋	塩釜				
大阪	中野	追濱	追濱				
一〇〇〇	六〇〇	三〇〇	三五八				

一羽ノ鳩ノ通信量石ノ如クナルヲ以テ鳩数ヲ多クスルコトニ依リ相當長文ノ書及多數ノ略圖縮圖等ヲモ輸送シ得ルモノナリ

信書筒	信書囊	鳩通信用寫真
二	一〇	最大限 四萬字
三三〇	一六五〇	顯微鏡寫真ニ依ル
横須賀海軍航空隊制定ノ 通信用紙一字ノ大サ一四センチ平方ナリ		

右ハ日本ニ於テ最大記録ニシテ、少ク以テ直子ニ安全ナル實用距離  
トナスヲ得、以テ安全ナル實用距離ニ關シテ、第三章ニ詳記ス

ハ通信精度 唯一羽、鳩ヲ使用スル場合ノ通信精度ハ天候距離其他情  
況ニ依リ零乃至百パーセント止ナルモ、鳩通信ニ於テハ必ス同一信文ヲ二羽以上、鳩  
ニ托スルヲ原則トシ且ツ必要ニ應シ鳩数ヲ多クスルコトニ依リ必ス通信ノ目的  
ヲ達シ得ル様ニ處理シ得ルモノナリ

### 第三章 軍鳩ノ形態

#### 第一節 外貌

優雅ニシテ威嚴アリ之ヲ土鳩(夏在來ノ鳩ニテ神社等ニ喜ル鳩)ニ比較スルトキ、體格一  
般ニ優秀ナル外大凡左ノ如キ特徴ヲ有ス  
頭大ニシテ額廣ク鼻瘤特ニ大ナリ(但幼鳩ハ小ナリ)眼環大ナリ從ッテ眼入



王鳩(百鳥)

傳書鳩(百鳥)

軍鳩(傳書鳩)ト土鳩ト比較

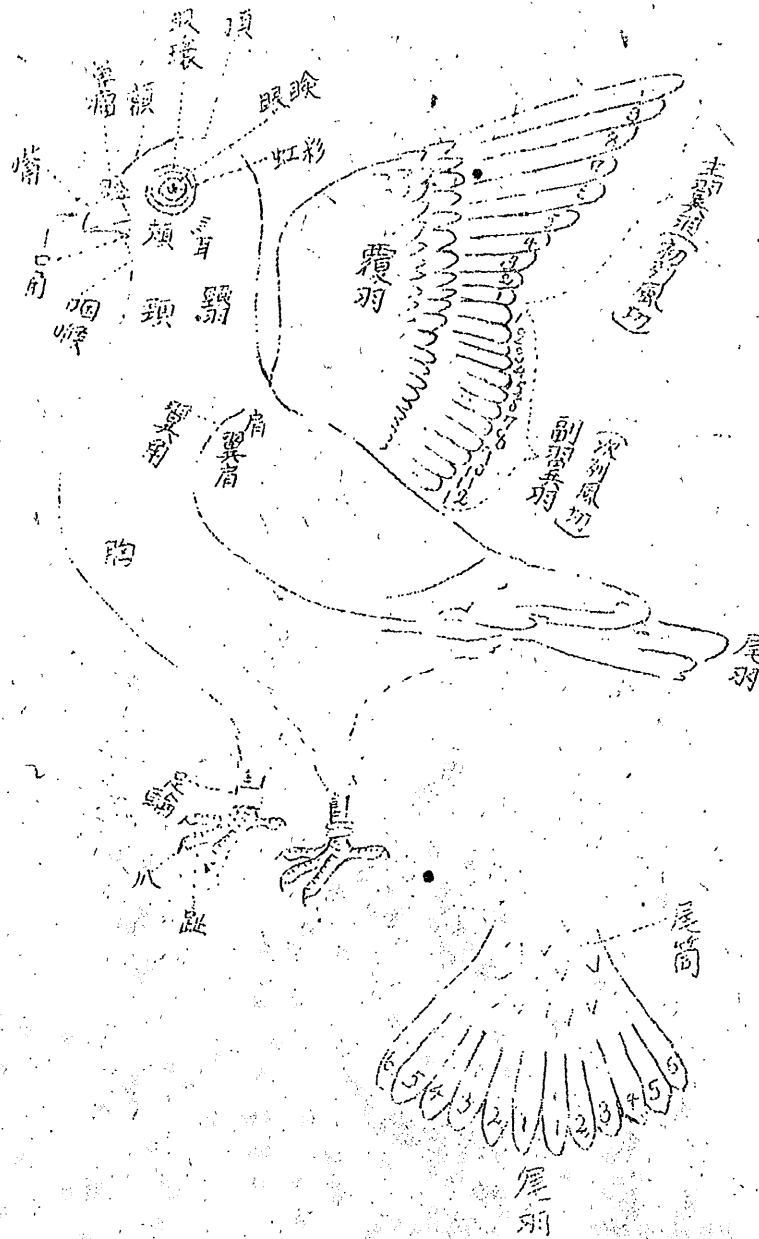
ヲ見ニ胸部能ク發達シ頸太クシテ且長ク脚強靱ニシテ能ク延ヒ其下方ニ記號ヲ刺セル足輪ヲ設ム(寫眞參照)



老鳩(佛國種)軍鳩約九才)

第二節 各部名稱

鳩体外貌名稱次圖ニ示セルカ如シ





第三節 羽色

灰 黒 栗 白斑(灰黒栗色中ニ白斑矣ヲ有スルモノ)等種々アリテ、各々濃  
 淡アリ又灰色ニハ黒色 栗色ニハ濃キ栗色ヲ以テニ條(或ハ三條)ノ劃線  
 ヲ有スルモノヲ夫々灰ニ引栗ニ引ト云ヒ又胡麻ヲ帯ヒタルモノアリ其ノ色  
 彩ニ從ヒ灰胡麻 栗胡麻 黒胡麻 紅栗 灰栗等ト稱シ三色以上ノ羽色  
 混在セルモノヲ雜斑ト稱ス羽色ハ能力ニ深キ關係ナキカ如シ(使鳩用語  
 部參照)

第四節 翼羽及尾羽

主翼羽 翼ノ外端ヨリ數ヘテ十枚ノ長強ナル羽ニシテ又之ヲ初列風切トモ云ヒ  
 飛翔中ハ主トシテ推進作用ヲ營ムモノナリ

副翼羽 主翼羽ノ内方ニ排列スル稍短少ナル羽ニシテ十二枚ノ次列風切ヲ主  
 トシ更ニ翼ノ内縁ヲ形成スル數枚ノ後列風切トヨリ成リ飛翔中ハ

主トシテ支撐作用ヲ營ムモノナリ

覆羽

翼ノ背腹面ヲ覆フ無数ノ小羽ニシテ飛翔中ハ主トシテ上下及旋回等ノ運動ニ與カルモノナリ

尾羽

十二枚ノ大羽ヨリ成リ飛翔中舵ノ作用ヲ爲スモノナリ

## 第五節

### 鳩記號

軍鳩ハ其所屬ヲ示シ且ツ取扱ニ便ナラシムルタメ各鳩ニ悉ク記號ヲ

附ス而シテ其翼ニ捺印(紫色イキヲ以テ)シタルモノヲ翼記號ト云ヒ脚ニ嵌

メタル足輪ニ記(足輪記號器ヲ用ヒテ浮出記號ヲ劃ス)セルモノヲ足輪記號ト

稱ス何レモ所屬鳩番號等ヲ示スモノニシテ海軍鳩ニハ錨印ヲ陸軍鳩ニ

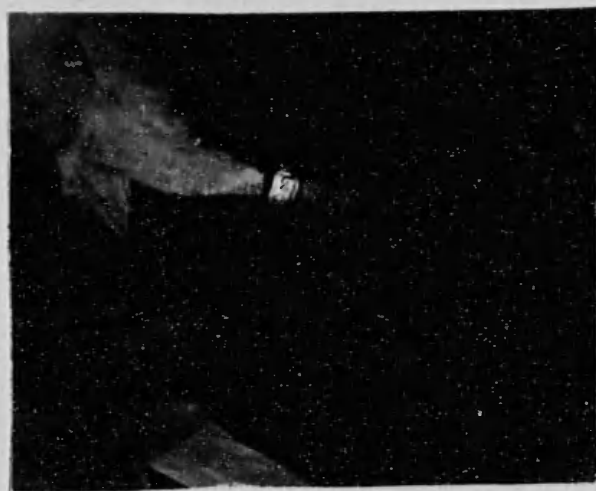
ハ☆印ヲ民間鳩ニハ定紋屋號姓名等ヲ附スルヲ以テ一見シテ其何

レニ屬スルカヲ識別シ得ルモノナリ

1293



翼記號



足輪記號

第六節 優秀鳩の外観容姿

外観ニヨリ優秀鳩ヲ鑑定スルコトハ相當難カ敷キコトナレトモ子クノ優秀鳩ノ具備スル外観特徴ノ主ナルモノヲ擧クハ左ノ如シ

総體……………一見如何ニモ各部カ整正ニシテ釣合ノヨキコト

頭……………稍球形ニシテ額廣ク後頭部能ク發達ス

眼……………清澄ニシテ瞬ノ動作敏活瞳ハ鮮麗ニシテ虹採膜中稍前方

ニ偏位ス

翼羽……………強ク肩部ニ附着シ脂肪ニ富ミ主翼羽ハ長廣ニシテ強靱ナル

羽軸ヲ有シ覆羽ハ豊富柔軟ニシテ相重ナリ間隙ナク所要ノ

面ヲ覆フ棲リ木ニアルトキ兩翼ヲ堅ク思宜ミテ尖端ヲ尾羽ノ上

ニ支フ

胸部……………廣クシテ前方ニ張り胸骨鞏固ニシテ左右ニ彎曲セス

頭……………羽毛厚ク何トナク力強ク見ユ

喙爪……等ハ堅クシテ其色單色ナリ

體重……過重ナラス過輕ナラス

普通 雄鳩 四百二十五瓦——五百二十五瓦 (一〇三瓦——一四〇瓦)

雌鳩 三百八十瓦——四百八十瓦 (一〇一瓦——一三八瓦)

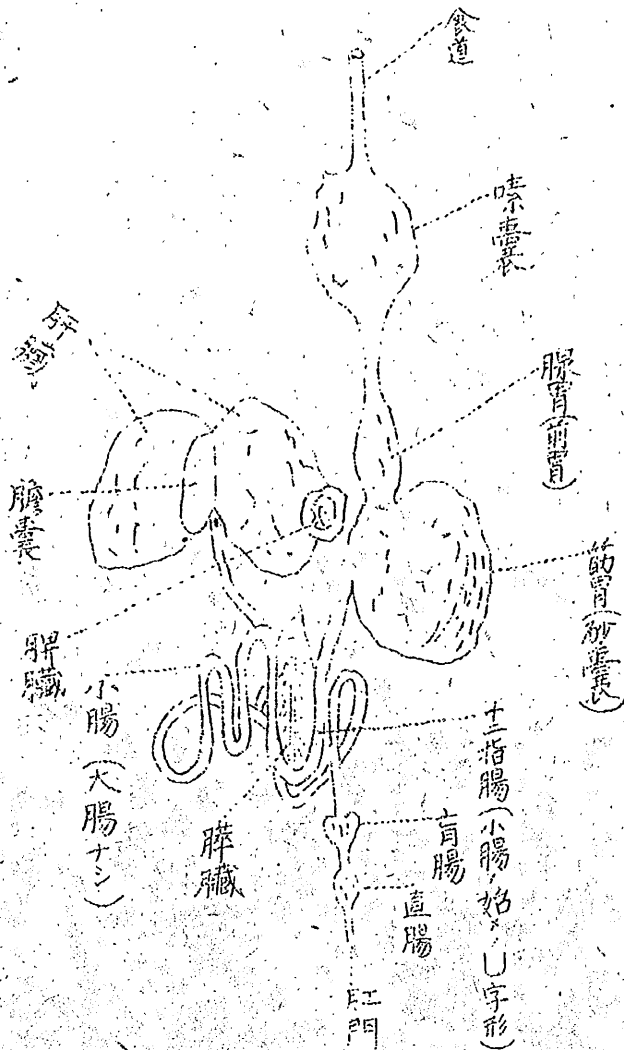
羽色……羽色ハ能力ノ優劣ニ關係ナキカ如シト雖モ同色ニ於テハ其淡

キモノヨリ濃キモノヲ可トス又白色鳩ハ愛玩用トシテハ極メテ美

麗ナルモ害鳥害獸等ニ發見サレ易ク從テ上等ノ籠穀等ヲ

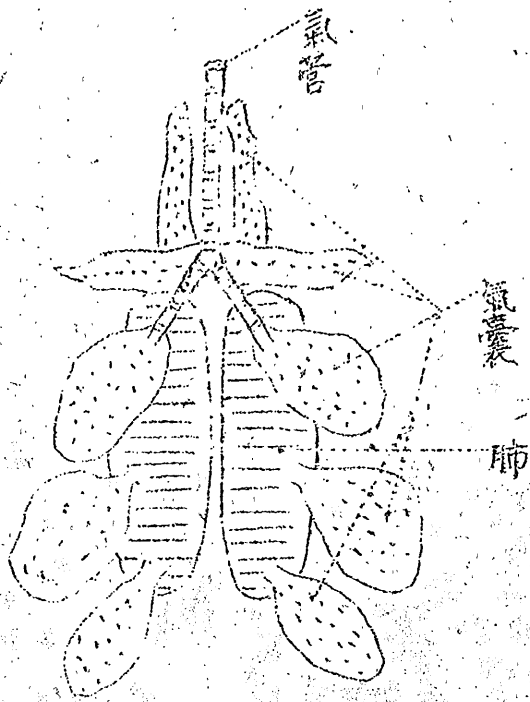
蒙ル機會ヲキヲ以テ軍鳩トシテハ適當ナラス

第七節 鳩體構造及官能  
一、消化器系



消化器ハ口ニ始マリ食道嗉嚢胃(腺胃及筋胃)及腸ヨリ成ル營養管

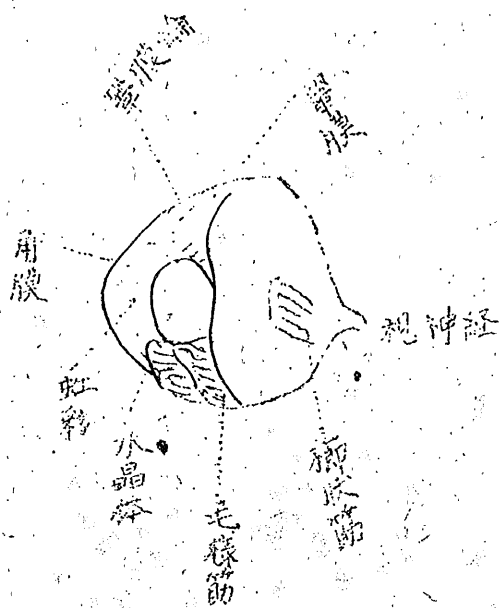
二呼吸器系



肝臓及脾臓トヨリ成ル食物ハ啄取セラル、其後食道ヨリ嚙嚙ニ  
 入り一時此所ニ停滯軟化セラレテ後小量宛腺胃(前胃)ニ進ミ胃液ニ  
 混リテ筋胃ニ移リ其ノ筋壁ノ強キ伸縮作用ニヨリテ砂粒ト相磨シ破碎  
 セラレテ小腸ニ入り腸液、脾液、胆汁等ノ強カナル消化液ニ會シテ完全ニ  
 消化セラレ腸管内ヲ通過中營養分ヲ吸收セラシ殘滓ハ肛門ヨリ排泄セラル

三眼

呼吸器ハ鼻孔、喉頭、氣管、肺及氣囊ヨリ成ル。氣囊ハ九個ヨリ成ル。薄  
 膜透明ノ囊ニシテ多クノ骨腔ト連絡シ空氣ヲ含ミテ鳩体ノ比重ヲ減シ  
 呼吸ヲ補助シ飛翔ヲ便ナラシムル器ナリ。





眼ハ鳩、能カニ至大ノ關係ヲ有スル重要機關ニシテ其通視力ノ強大ナルコト他ノ動物ノ比ニテラス此ノ重要ナル機關ハ其外部ヲ角膜、眼瞼、以テ圍マレ更ニ其内方角膜ノ直前ニ透明ナル瞬膜ヲ有シ極メテ放活ニ眼珠ヲ拭淨シ淚液ト相俟テ角膜ノ透明部ヲ濡シ飛翔間眼球ヲ保護ス

眼球全体ノ構造ハ他ノ鳥類ト殆ント同様ニシテ視神經ヲ通過スル部ニ接シテ櫛狀ノ組織ヲ有シ其伸縮ニヨリテ眼球形ヲ變シ水晶体ノ變形ト相俟テ通視ヲ放活ニ調節ス即チ一瞬時ニシテ能ク一寸先ノモ、十数里遠方ノモノモ視別シ得ルモノナリ

#### 四 換羽

鳩ハ毎年一回規則的ニ羽毛ヲ更新スルモノナリ也ヲ換羽ト云フ換羽ハ概シテ春ニ始マリ秋末ニ完了スルヲ常トスルモ種々ノ原因ニヨリ遲

滞スルコトアリ。換羽ハ斯ク長期ニ亘リテ順次ニ行ハルモノナレ共時機ニ  
 リテ程度ヲ異ニシ初秋(九月前後)ニ於テ最モ旺ニシテ且ツ此ノ時機ニ  
 ハ主翼羽ト共ニ尾羽及其他全身羽毛ノ脱換ニヨリ一際目立テ換  
 羽ノ状ヲ呈ス一般ニ此ノ時機ヲ稱シテ換羽期ト云フ

換羽期ニ於テハ内部ニ於ケル生理的変化ノタメ鳩ハ常ノ如ク氣色  
 勝レス且ツ主要ナル翼羽(初列風切中外翼)脱落ノ際ハ著シク飛翔  
 カニ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ遠距離ノ使用ニ際シテハ特ニ翼羽ノ衰  
 檢ヲ嚴密ニシ運動飼糧等ヲ規正シ常ニ鳩舎ヲ平靜ニ保チ以テ  
 換羽ノ圓滑促進ヲ計ラサルヘカラス



## 第四章 軍鳩ノ能力

### 第一節 鳩ノ歸巢性

傳書鳩ト稱スル特種ノ鳩ハ自己ノ巢ニ對シ一種強烈ナル愛着心ヲ有シ遠隔セル地ニ於テ放サレタルトキ自ラ其ノ方向ヲ判定シテ歸還スル靈妙ナル潜在的能力ヲ具備スルモノナリ

乃チコノ本能ヲ吾人カ利用スルモノニシテコノ第六感トモ云フヘキ能力ノ勵發訓練ノ巧拙ハ鳩ノ實用的能力ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ此ノ歸巢性ハ他ノ一般鳥類ニ於テモ概ネ備フルモノナレトモ之ヲ鳩ニ較スレハ其差甚ク大ナリ抑モ傳書鳩ハ古來人類ニ使役セラレ幾多ノ淘汰改善ヲ經テ遂ニ今日ニ至レルモノニシテ其優秀ナルモノニアリテハ一日ニ能ク千餘料ノ遠距離ヲ飛翔シテ歸巢シ得ルモノナリ此ノ靈妙ナル機能ノ本源ニ就テハ從來幾多ノ學說アルモ未タ以テ權威アル絶對的証明解説ヲナシ得タルモノナシ推測スルニ卓越セル肉眼視カト優秀ナル

視覚的記憶力並聯想等ニ依リ特種ノ頭腦能力(第六感ト後稱ス)ヲ以テ自己ノ鳩舎ノ方向ヲ判定シ熾烈ナル歸巢意志ト執強ナル飛翔力ニ依リ能ク遠距離ヨリ歸還シ得ルモノナラン

但シテ不可思議ナル能力モ自然ノ儘ニ放置スル時ハ決シテ自發的ニ發達伸張スルモノニアラス、掌鳩者ノ連綿不斷ノ熱心ナル合理的訓練ニ依リ殆トテ勵發セラレ向上スルモノナルヲ忘ルヘカラス

### 第三節……………鳩ノ飛翔速力並實用距離

#### 一 晝間鳩舎

鳩ノ飛翔速力ハ素質距離訓練天候管理法健康狀態及地勢等ノ差異ニヨリ一定シ難シト雖モ其ノ總テヲ普通ノ情況ニアルモノトスルトキハ優秀鳩<sup>平均</sup>一分一料ナレ共普通鳩平均速力ハ大凡一分時六百乃至八百米附近ト見做スヲ適當トス蓋シ鳩ノ飛翔速力ハ單ニ飛翔力ノ優劣

ノミニ依ルモノニアラスシテ歸還方向ニ對スル判定ノ良否ハ著シク成績  
 ヲ左右スルモノナレハナリ。故ニ中等鳩以下ノモノニシテ時ニ平均分速一料以  
 上ナルコトアリ又優秀鳩ニシテ平均分速二料以上ヲ算スルコトモ敢テ珍  
 ラシカラス然レ共一方ニ於テ多數ノ鳩ノ内ニ甚敷ク歸舎ニ遅ルモノモナキ  
 ニアラス故ニ軍鳩ノ飛翔速力ハ中等鳩ニ於ケル平均成績ヲ以テ其ノ標準  
 トスルヲ可トス但シ一般ノ標準速力ハ一分一料トナス可ク而テ實驗上能  
 ク訓練セラレタル鳩ハ一分一料ノ成績ヲ擧ケルハ決シテ難事ニアラス  
 實用距離モ亦種々ノ情況ニヨリ差異アリテ一定シ難シト雖モ大体ニ於  
 テ陸上固定鳩舎ハ海陸両方面共ニ三百料以内トスルヲ通信ノ完全ヲ期  
 スルニ於テ適當トス  
 艦上鳩舎ハ泊地ニ於テ鳩舎艦碇泊中ハ碇泊日數ニ比例シテ通信  
 距離ヲ増スニ得ヘキモ種々ノ情況ニ依リ實用距離ハ大凡一〇〇料  
 以内ナリ又鳩舎艦航行中ニ於ケル通信距離ハ二百料以内ヲ以テ

最ニ確實ナリトス

移動鳩舎ハ整置日数ノ多少ニヨリテ異ナルモ移動性ヲ完全ニ保持

セシムルニ範圍内ニ於ケル通信距離ハ概テ五十斤以内ニシテ之以上距離

ニ及ハ時ハ漸次固着性ヲ帯フルニ至ルハシ

往復通信鳩舎ニ下リテハ五十斤以內ニ日々完全ニ往復セシム得ヘテ百斤以

上ハ可能性ヲ有スルハズ

## 二 夜間鳩舎

夜間鳩舎ノ昼間飛翔成績ハ一般ニ昼間鳩舎ノ其レニ優ルモノナリ然レトモ

昼夜共ニ使用セテハ以テ昼間鳩舎ニ比シテ負荷一層大ニシテ昼間固定

鳩舎ハカク大距離ニ於ケル使用ニ稍々困難ヲ感スルヲ憾トス

夜間通信ハ使用時期ノ天候及明暗ノ程度等ニ依リ成績ニ著シキ

差異ヲ生ズ即チ初夜未明等ニ於ケル飛翔成績ハ概テ昼間通信

ニ追隨シ得 深夜飛翔ニアリテハ尚研究中ナルモ未ダ成績一較ニ低下スル

ヲ免シス又月明ノ夜ハ暗夜ニ比シ成績遙カニ良好ナリ  
 實用距離ハ晝間又ハ晝夜連續飛翔ニテリテハ概ネ二百料以内トシ  
 夜間ノミノ飛翔ニテリテハ特別ノ場合ヲ除キ百料以内ニ於テ依用スル  
 ヲ適當トス

## 第五章 管理飼育

### 第一節 鳩舎軍 種類及性能

鳩舎軍ハ大体ニ於テ固定及ヒ移動ニニ大別セラル、モ更ニ其用途ニ從  
 ヒ陸上固定鳩舎、夜間鳩舎、艦上鳩舎、移動鳩舎(車)及往復通信  
 鳩舎等ニ區分セラレ各其ノ特長特質ヲ有ス

#### 一 陸上固定鳩舎

普通一敵ニ用ヒラル、汽道通信鳩舎ニシテ陸上ニ固定シ専用晝間使  
 用遠距離ヨリノ用途ニ應シ得ル外多數ノ鳩ノ飼育ニ便ニシテ且



鳩ニ最モ適ス

二 夜間鳩舎

普通陸上ニ固定シ(移動性ノモアリ)特種ノ装置(明暗換氣様光燈尤  
彩色等)ヲ施シテ専ラ夜間鳩(昼夜鳩)ヲ飼育シ昼夜間ノ通信ニ應ジ得  
ルモノニシテ近來特ニ重用セラレツアリ

三 艦上鳩舎

艦艇トニ固定シ取扱ニ便ナラシムルタメ多クハ分解式ニシテ艦艇ノ行動ニ  
從ヒ鳩モ亦自ラ移動性ヲ帶フルニ至リ所謂半固定式鳩舎ニシテ艦艇間  
又ハ航空機陸上等ヨリ艦艇ニ通信スルニ用フルモノナリ

四 移動鳩舎(車)

移動ニ便ナラシムルタメ多クハ車輪付ニテ中ハ分解式(駆動式)又ハ揚帶用  
鳩舎ノ如キ極メテ簡便ナルモノアリ陸上運動戰ノ場合又ハ航空基地前  
進根據地等ニ移搬シテ急速馴致シ以テ直ニ用途ニ應ジ得ヘキ鳩ヲ飼育

スルモノナリ。

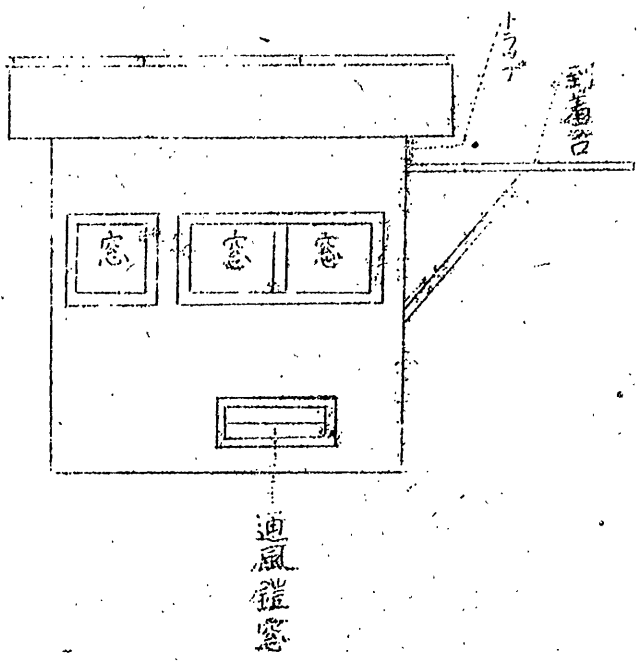
### 五 往復通信鳩舎

普通陸上ニ固定シ(移動性ノモノモナリ)棲息鳩舎及食事鳩舎ヲ各相異ナル地矣ニ設備シ専ラ性慾食慾ヲ利用シ時ヲ是メテ鳩ヲ夫々兩鳩舎ニ吸引シ日々兩地間ヲ往復セシメヤニ依リ定期通信ヲ行フ特種ノ鳩舎ナリ本鳩舎ノ利矣ハ簡單ニ往復通信ヲナスコトニシテ一是時刻ニ多数ノ通信文ヲ輸送シ得ルモノナリ

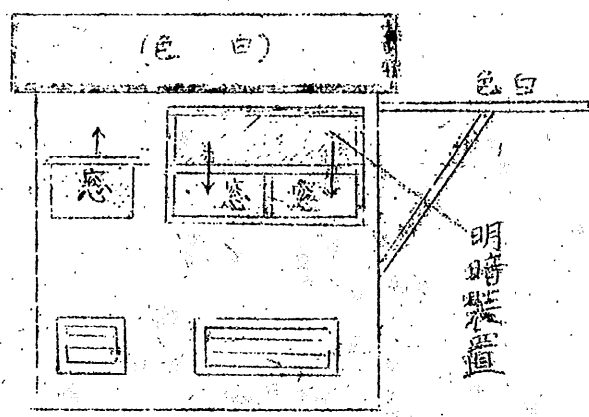
以上列記セル所ハ單ニ鳩舎ノ一般常識ニ過ぎス其ノ構造様式ニ至リテハ全ク千種萬態ナリ然レトモ各鳩舎ヲ通シ最緊要ナルハ採光換氣及展望等ノ良好ナルコトナリ而シテ外部ニ到着台ヲ取付テ内部ニ棚板(散歩台)巢房ヲ備ヘ且ツ鳩ノ入口ニトラップヲ設クルコトハ絶對必要ナル條件ナリトス

# 鳩舎外形略圖

一) 陸上固定鳩舎 (三階建て)

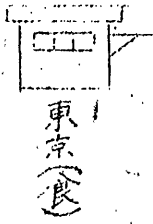


二) 夜間鳩舎 (五上)



1310

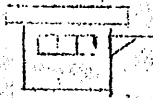
(五) 往復通信鳩舎



東京(食)

鳩群

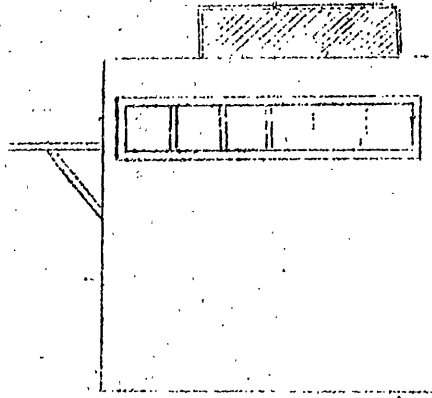
鳩群



横須賀(棧)

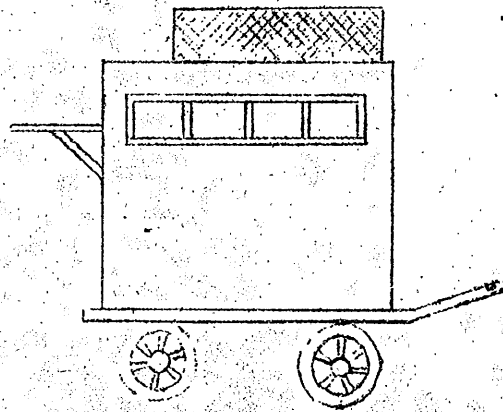
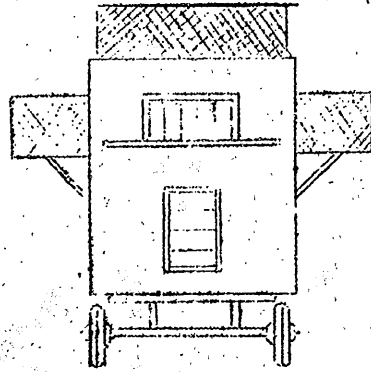
(三) 艦上鳩舎(分解式)

展望装置



(四) 移動鳩舎(分解式)

展望台



## 第二節……飼糧

### 一 飼糧ノ種類及選擇

鳩ハ豆類ヲ好ミ、豌豆、大豆、小蠶豆、豌豆、鳩豆、扁豆、落花生等皆之ヲ食ス。然レモ生理的ニ要求ヲ充スルニハ含窒素物、含水炭素物、脂肪、及礦物性、塩類等ヲ含有スル飼糧ヲ適度ニ與ヘサルカラス。然ルニ之等ノ諸要素ヲ單一ノ穀物中ヨリ得ルコトハ不可能ナルカ故ニ、自ラ牧種ノ混合飼糧ヲ必要トスルモノナリ。

### ニ 我海軍ノ常用飼糧

現在我海軍ニ於ケル常用ノ鳩飼糧ハ左ノ如シ。

白豌豆……含窒素物中代表的ノモノニシテ、榮養ノ良ニ於テ最良ノモノナリ。  
 玉蜀黍、玄米……麥類（大麥、小麥、裸麥）ト共ニ含水炭素物、代表的穀物ナレトモ、麥類ハ胃腸ヲ害シ易キヲ以テ玉蜀黍、玄米ノ二者ヲ採用ス。

麻、實……熱量多キ飼糧ナリ鳩ハ体温高(概氏四一四二度)キ以

テ( )ヲ保タシムルニ於テ非常ニ良キ飼糧ナリ

土塩ハ古石膏末黄土牡蠣末卵殼食塩(約一%)等ノ混合物(外ニ木炭末又ハ小砂利等ヲ混スルモ可ナリ)ヲ水ニテ捏ネ團子型ニ乾燥

シタルモ、ヲ云フ土塩ハ絶へス供給シ置キ鳩ノ啄取ニ委スモノト入

尚青菜ハ常ニ給與スヘキモノニシテ血液ヲ清新トラシメ活力ヲ與フルニ特効

アルモノナリ

右ノ外粟、菜種、苧胡麻、黍等モ適良ニ按配シテ用フレハ良キ飼糧ナリ

### 三 飼糧ノ配合

供給飼糧ノ種類ニ依リ差異アルモ大凡左記ヲ標準トシ時機氣候

其他ノ情况ニヨリ適宜按配ス

白豌豆 四〇——六〇%

麻、實 三〇——四〇%

玉蜀黍

一〇 一 二〇 〇

玄米

嗜好食トシ少量ヲ時々呼入調教、際又ハ遠距離

離飛翔後ノ賞與飼糧等)與フルモノナリ

飼糧ノ日量

鳩ノ年齢氣候時機其他ノ情況ニヨリ差異アルモ通常一羽ニ對シ前

記混合飼糧ヲ大凡三五乃至四五瓦(約九三一一一匁)ニテ約三勺)ナリ日

ニ二回(冬季)乃至三回(夏季)ニ供給ス但シ情況ニヨリ全季ヲ通シテ日ニ

一食制ニ食制三食制トナスコトヲ得

青菜ハ一週ニ三回也ヲ刻ミテ給與ス 白菜 豆ヤ菜 フラン草 玉菘菜等

菜小松菜等皆良好ナル餌ナリ 葉菜ヨリハ莖ヲ好ムモノナリ

飲水ハ極メテ緊要ニシテ常ニ清淨ナルモノト更新スルヲ要ス 絶水ハ

絶食ヨリモ一層危険ナリ 鳩ハ水ノミニニテモ能ク數日間生存シ得ルモノナリ

五飼糧ノ精選

銅燻ハ採取ヨリ六ヶ月以上ヨリ経過シ能ク乾燥シタルモノナルヲ要ス良ク  
乾燥セルモ甚タシク古キモノハ良シカラス常ニ塵芥及雜物ヲ除キ精  
選シ置キ且ツ使用前充分日光ニ曝スヲ要ス發黴及質ノ穀物ヲ其  
ノ僥與ヘンカ忍ビニシテ病鳩發生シ頃日ノ努力モ水沍ニ歸スルノ愚ヲ招  
クニ至ラン

第三節

器材作業服及諸用紙

器材

準備品ノ部

藥箱

燻室内側ニ連接シテ裝備シ單藥房ノモノト複藥房(普

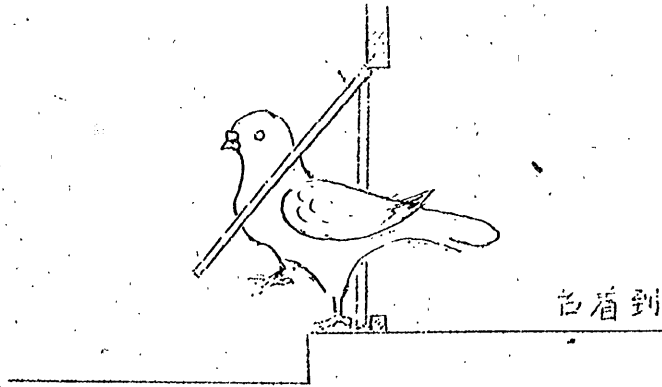
通二個連結ナレモ時ニ棚板式ニ各藥房ノ區劃ヲナセルモノアリ)

モノトアリテ之ニ番ノ燻ヲ收容ス藥房ノ容積ハ燻舎ノ性質

ニヨリ差異アルヲ問はず六寸奥行一尺三寸高サ一尺三寸ヨリ小十

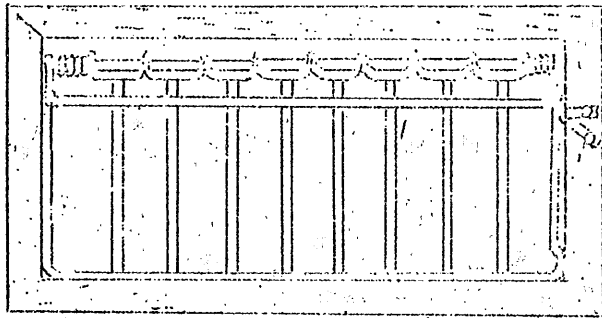
九





右看對

「トラダ」(側面)



全上(内面)

「トラダ」……ラナルヲ可トシ其構造ハ鳩ノ棲息ト雛ノ成育ヲ適スルヲ要ス  
 枠内ニ金屬棒ヲ懸垂シテ製成セシ「ト」様ノモノニテ鳩ノ出  
 入口ニ裝備シ歸來セル鳩ノ入舎ニ便ナラシム

電鈴

「トランプ」ト併用シ歸還鳩カ「トランプ」ヲ潜ルトキ（又「トランプ」直下ノ到着台ニ上リタルトキ）電路ヲ完成シ振鈴ニヨリ鳩ノ入舎ヲ報知スルモノナリ

呼笛

高音ヲ發スレ笛ニシテ鳩ノ呼込調教等ニ使用ス

鳩籠

大小形態種々ナリテ其ノ用途ニ應ジ區別スレハ大凡左如シ

輸送用

專ラ鳩輸送ニ使用スルモノニシテ普通十二羽乃至十八羽ヲ收容シ得

携帶用

鳩ヲ携行シルトモ用アルモノニシテ輕便ヲ主眼トシ折疊式ノモノアリ二羽乃至六羽ヲ收容シ得

飛行機用

飛行機ニ搭載使用スルモノニシテ重量輕ク携帶用ノモノニ利用シ得特ニ木製又ハ金屬製ノモノモアリ

閉置用

特別大型ノモノニシテ鳩ヲ數日以上全一地ニ閉置シテ通信ヲ行フ場合ニ極メテ有効ナルモノナリ